

諏訪広域連合における指定地域密着型通所介護事業所で提供する宿泊サービス事業の運営等に関する指針

第1 総則

1 定義

- (1) この指針において「宿泊サービス」とは、介護保険法（平成9年法律第123号。以下「法」という。）第8条第17項に規定する地域密着型通所介護、第8条第18項に規定する認知症対応型通所介護及び第8条の2第13項に規定する介護予防認知症対応型通所介護のいずれかの指定を受けた事業所（以下「指定地域密着型通所介護事業者」という。）が当該指定を受けた事業所（以下「指定地域密着型通所介護事業所」という。）の営業時間外に、その設備を利用し、当該指定地域密着型通所介護事業所の利用者に対して行われる、必要な介護及び宿泊を伴うサービスをいう。
- (2) この指針において「宿泊サービス事業者」とは、宿泊サービスを提供する者をいう。
- (3) この指針において「宿泊サービス事業所」とは、宿泊サービスを提供する事業所をいう。
- (4) この指針において「利用者」とは、指定地域密着型通所介護事業所を利用している者であって、当該指定地域密着型通所介護事業所が提供する宿泊サービスを利用する者をいう。

2 目的

諏訪広域連合における指定地域密着型通所介護事業所で提供する宿泊サービス事業の運営等に関する指針（以下「指針」という。）は、指定地域密着型通所介護事業所において、宿泊サービスを提供する場合に遵守すべき事項を示すことにより、当該宿泊サービスを利用する者の尊厳の保持及び安全の確保並びに宿泊サービスの健全な提供を図ることを目的とする。

3 基本方針

- (1) 宿泊サービス事業所において、宿泊サービスを提供する場合に満たすべき人員、設備及び運営に関する取扱いについては、この基準で定めるところによる。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を継続できるよう、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話に係るサービス提供を行うこと。
- (3) 宿泊サービス事業者は、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立った宿泊サービスの提供に努めること。
- (4) 宿泊サービス事業者は、利用者の状況や宿泊サービスの提供内容について、法第46条第1項に規定する指定居宅介護支援事業者と必要な連携を行うこと。なお、居宅サービス計画への宿泊サービスの位置付けは、指定居宅介護支援事業者の介護支援専門員等により、あらかじめ利用者の心身の状況、家族の状況、他の介護保険サービ

スの利用状況を勘案し適切なアセスメントを経たものでなければならず、安易に居宅サービス計画に位置付けるものではないこと。

- (5) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスが位置付けられた居宅サービス計画に沿って、当該サービスを提供すること。
- (6) 宿泊サービス事業者は、日中における指定地域密着型通所介護の運営に支障がないよう宿泊サービスを提供すること。
- (7) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス事業の実施及び運営に当たっては、消防法（昭和 23 年法律第 186 号）、労働基準法（昭和 22 年法律第 49 号）その他の法令等を遵守すること。

4 宿泊サービスの提供

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者の心身の状況により、若しくは利用者の家族の疾病、冠婚葬祭、出張等の理由により、又は利用者の家族の身体的及び精神的な負担の軽減等を図るために、一時的に居宅において日常生活を営むのに支障がある者を対象に、宿泊サービスを提供すること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、(1) の趣旨に鑑み、緊急時又は短期的な利用に限って、宿泊サービスを提供すること。
- (3) 利用者のやむを得ない事情により連続した利用が予定される場合においては、指定居宅介護支援事業者と密に連携を図った上で、次の日数の範囲で宿泊サービスを提供すること。
 - ① 利用者に連続して宿泊サービスを提供する日数の上限は、原則 30 日とすること。
なお、利用者の日常生活上の世話をを行う家族の疾病等のやむを得ない事情により連泊日数が 30 日を超えることとなる場合、指定居宅介護支援事業者と密接に連携を図った上で、他の介護保険サービス等への変更も含め、利用者の心身の状況や利用者の家族の事情等に応じたサービス提供を検討すること。
 - ② 利用者に宿泊サービスを提供する日数については、法第 19 条第 1 項に規定する介護認定の有効期間の概ね半数を超えないようにすること。

第 2 人員に関する指針

1 従業者の員数及び資格

宿泊サービス事業者が、宿泊サービス事業所ごとに置くべき従業者（以下「宿泊サービス従業者」という。）の員数は次のとおりとする。

- (1) 宿泊サービス従業者は、宿泊サービスの提供内容に応じ必要数を確保することとし、宿泊サービスの提供を行う時間帯（以下「提供時間帯」という。）を通じ、夜勤職員として介護職員又は看護職員（看護師又は准看護師をいう。）を常時 1 人以上確保することとする。
- (2) 食事の提供を行う場合は、食事の介助等に必要な員数を確保すること。

(3) 緊急時に対応するための職員の配置又は提供時間帯を通じた連絡体制の整備を行うこと。

2 責任者

宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者の中から責任者を定めること。

第3 設備に関する指針

1 設備及び備品等

(1) 必要な設備及び備品等

宿泊サービス事業所は、宿泊室及び消火設備その他の非常災害に際して必要な設備、宿泊サービスを提供するにあたり適切な寝具等の必要な備品を備え、当該指定地域密着型通所介護事業所の運営に支障がないよう適切に管理すること。

(2) (1)に掲げる宿泊室及び消火設備その他の非常災害に際して必要な設備の基準は、次のとおりとする。

①宿泊室

ア 宿泊室の利用定員は、7.43 m² (4.5 畳間程度) は1人、9.93 m² (6 畳間程度) から13.24 m² (8 畳間程度) は2人、16.56 m² (10 畳間程度) は3人、19.87 m²以上 (12 畳間程度以上) は4人を上限の目安とする。

イ 1つの宿泊室を複数の利用者が同時に利用する場合、利用者同士のプライバシーを確保するとともに、利用者の希望等により処遇上必要と認められる場合を除き、男女が同室で宿泊することがないようにすること。

なお、プライバシーが確保されたものとは、例えば、パーテーションや家具、カーテン等により利用者同士の視線の遮断が確保されるものである必要があるが、壁やふすまのような建具まで要するものではない。

ただし、カーテンを用いる場合は防災加工品のものとし、利用者の同意を得た上で使用すること。

②消火設備その他の非常災害に際して必要な設備事業所所在地を管轄する消防機関の指示に従い、必要な設備を設置すること。

第4 運営に関する指針

1 内容及び手続きの説明及び同意

宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、10に定める運営規程の概要、責任者の氏名、当該サービス従業者の勤務体制その他利用申込者の宿泊サービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、その内容及び利用期間等について利用申込者の同意を得ること。

2 宿泊サービス提供の記録

宿泊サービス事業者は、宿泊サービスを提供した際には、提供日、提供した具体的なサービス内容及び利用者の心身の状況その他必要な事項を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法により、その情報を利用者に対して提供すること。

3 宿泊サービスの取扱方針

- (1) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供にあたり、懇切丁寧を旨とし、利用者又はその家族に対し、当該サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスの提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者等の生命又は身体を保護するため緊急かつやむを得ない場合を除き、身体的拘束その他の利用者の行動を制限する行為（以下「身体的拘束等」という。）を行ってはならない。
- (3) 宿泊サービス事業者は、(2)の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急かつやむを得ない理由を記録すること。
- (4) 宿泊サービス事業者は、自らその提供する宿泊サービスの質の評価を行い、常にその改善を図ること。

4 宿泊サービス計画の作成

- (1) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービスを概ね4日以上連続して利用することが予定されている利用者については、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境等を踏まえて、利用者が利用する指定地域密着型通所介護事業所におけるサービスとの継続性に配慮して、当該利用者の指定居宅介護支援事業者と連携を図った上、具体的なサービス内容等を記載した宿泊サービス計画を作成すること。

また、4日未満の利用であっても反復的、継続的に利用することが予定されている利用者については、宿泊サービス計画を作成し、宿泊サービスを提供すること。

なお、宿泊サービス計画に相当する内容を地域密着型の通所介護計画の中に記載する場合は、その記載をもって宿泊サービス計画の作成に代えることができるものとする。

- (2) 宿泊サービス事業者は、計画に作成に当たっては、居宅サービス計画に沿って作成し、宿泊サービスの利用が長期間にならないよう、居宅介護支援事業者と密接に連携を図ること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、計画の作成に当たり、その内容について、利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得るとともに、作成した計画を利用者に交付すること。

5 介護

- (1) 介護は、利用者の心身の状況に応じ、利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術をもって行うこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者の心身の状況に応じ、適切な方法により、排せつの自立について必要な援助を行うこと。
- (3) 宿泊サービス事業者は、おむつを使用せざるを得ない利用者のおむつを適切に取り替えること。
- (4) 宿泊サービス事業者は、(1) から (3) までに定めるほか、利用者に対し、離床、着替え、整容その他日常生活上の世話を適切に行うこと。

6 食事の提供

- (1) 宿泊サービス事業者は、栄養並びに利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を適切な時間に提供すること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者が可能な限り離床して、食堂で食事を摂ることを支援すること。

7 健康への配慮

宿泊サービス事業者は、当該指定地域密着型通所介護事業所において把握している利用者の健康に関する情報に基づき、必要に応じて主治の医師や指定居宅介護支援事業者と連携し、常に利用者の健康の状況に配慮して適切な宿泊サービスを提供すること。

8 相談及び援助

宿泊サービス事業者は、常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うこと。

9 緊急時等の対応

宿泊サービス事業者は、現に宿泊サービスの提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師又はあらかじめ協力医療機関を定めている場合は、当該協力医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講じること。

10 運営規程

宿泊サービス事業者は、次に掲げる事業の運営についての重要事項に関する規定（以下「運営規程」という。）を定めておくこと。

なお、宿泊サービス事業所の利用定員は、当該指定地域密着型通所介護事業所の運営規程に定める利用定員の2分の1以下かつ9人以下とすること。

- ①事業の目的及び運営の方針
- ②従業者の職種、員数及び職務の内容
- ③サービス提供日及びサービス提供時間

- ④利用定員
- ⑤宿泊サービス内容及び利用料その他の費用の額
- ⑥宿泊サービス利用に当たっての留意事項
- ⑦緊急時等における対応方法
- ⑧非常災害対策
- ⑨その他運営に関する重要事項

11 勤務体制の確保等

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者に対し適切な宿泊サービスを提供できるよう、宿泊サービス従業者の勤務体制を定めておくこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、当該宿泊サービス従業者によって宿泊サービスを提供すること。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではない。
- (3) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保すること。

12 定員の遵守

宿泊サービス事業者は、10 に定める運営規程における利用定員を超えて宿泊サービスを行ってはならない。

13 非常災害対策

宿泊サービス事業者は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び地域住民等との連携体制を整備し、それらを定期的に宿泊サービス従業者に周知するとともに、定期的に夜間を想定した避難、救出その他必要な訓練を行うこと。

14 衛生管理等

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、当該宿泊サービス事業所において感染症が発生し、又はまん延しないように必要な措置を講ずるよう努めること。

15 掲示

宿泊サービス事業者は、当該宿泊サービス事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、責任者の氏名、宿泊サービス従業者等の勤務体制、苦情処理の概要、緊急時の避難経路その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示すること。

16 秘密保持等

- (1) 宿泊サービス従業者は、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を洩らさないこと。

- (2) 宿泊サービス事業者は、宿泊サービス従業者であった者が、正当な理由なく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らすことがないように、必要な措置を講ずること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、指定居宅介護支援事業者との連携において、宿泊サービス事業所における利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意をあらかじめ文書により得ておくこと。

17 広告

宿泊サービス事業者は、宿泊サービス事業所について広告を行う場合、その内容が虚偽又は誇大なものとならないようにすること。

18 苦情処理

- (1) 宿泊サービス事業者は、提供した宿泊サービスに係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講ずること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、(1)の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録すること。

19 事故発生時の対応

- (1) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供により事故が発生した場合は、市町村、当該利用者の家族、当該利用者に係る居宅介護支援事業者に連絡を行うとともに、必要な措置を講ずること。
- (2) 宿泊サービス事業者は、(1)の事故の状況及び事故に際して採った処置について記録すること。
- (3) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を速やかに行うこと。

20 宿泊サービスを提供する場合の届出

- (1) 指定地域密着型通所介護事業所が指定通所介護の提供以外の目的で、当該指定地域密着型通所介護事業所の設備を利用し、宿泊サービスを提供する場合には、当該サービスの提供開始前に、別紙様式により届出を行うこと。
- (2) 指定地域密着型通所介護事業所は、(1)で届け出た内容に変更があった場合、別紙様式により、変更の事由が生じてから10日以内に届出を行うこと。
- (3) 指定地域密着型通所介護事業者は、当該宿泊サービスを休止又は廃止する場合、別紙様式により、その休止または廃止の日の1月前までに届出を行うこと。

21 調査への協力等

宿泊サービス事業者は、提供した宿泊サービスに関し、利用者の心身の状況を踏まえ、妥当かつ適切な宿泊サービスが行われているかどうかを確認するために諏訪広域連合が行う調査に協力するとともに、指導又は助言を受けた場合には必要な改善を行うこと。

22 記録の整備

- (1) 宿泊サービス事業者は、従業者、設備、備品に関する諸記録を整備しておくこと。
- (2) 宿泊サービス事業者は、利用者に対する宿泊サービスの提供に関する次に掲げる記録を整備し、その完結の日から5年間保存すること。
 - ① 2に定める具体的な宿泊サービス提供の内容等の記録
 - ② 3(3)に定める身体的拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録
 - ③ 4に定める宿泊サービス計画
 - ④ 18(2)に定める苦情の内容等の記録
 - ⑤ 19(2)に定める事故の状況及び事故に際して採った処置についての記録

附則

この指針は、平成28年7月1日から施行する。